

令和5年9月20日（水曜日）

予算決算委員会 建設分科会

第5委員会室

出席議員

大西陽介、重田一政、川島淳良、阿山正人、
八木隆次郎、高見千咲、東影 昭、神頭敬介、
松岡廣幸

【建設委員会（都市局）の審査】

開会 11時00分

都市局 11時00分

送付議案説明

- ・議案第102号 令和4年度姫路市一般会計決算認定について
- ・議案第111号 令和4年度姫路市都市開発整備事業会計決算認定について
- ・議案第113号 令和5年度姫路市一般会計補正予算（第3回）

質疑 11時25分

（質問）

地方バス路線維持経費に4億1,300万円あまりを支出しているが、令和3年度決算額は幾らであったのか。

（答弁）

約3億6,000万円である。

（質問）

バスの赤字路線に対する補填に係る経費ということだが、その一方で地域公共交通全体をどうしていくのかということも非常に大きな課題になっている。

そのような中、8月に私が参加した公共交通の研修会で、10月に地域公共交通の活性化及び再生に関する法律を改正する法律の一部が施行されるという話を専門家の学識者から聞いたが、今のところ本改正に対する本市の取組についての情報はあまり表に出てきていない。

姫新線や播但線などの市をまたぐ鉄道やバス路線も含めて公共交通を見直す必要がある状況下で、今のところ本経費は市内の赤字路線のみに対する補填だと思うが、今後についてはどのように考えているのか。

（答弁）

路線バスは神姫バスが運営しているが、コロナ禍の

影響もあって利用者が減り、運転手も不足するなど、経営が厳しい状況にあるため、我々としては赤字を補填して既存の公共交通を維持することを最大の目標としている。

また、北部等の公共交通空白地においては、既存の公共交通では需要を満たすことが難しく、コミュニティバスやデマンド型乗合タクシーなど、いろいろと社会実験を行ったが、うまくいかなかった。

そのため、そのような地域に対しては、地元に入って、宅配や新規出店などの公共交通以外の方法を含め、どのような方法で買い物や通院の足を確保していくかということを考えていきたい。

また、指摘の法改正は、鉄道のローカル線の存続についてJRが政策を提言しているが、自治体はその話合いに応じてくれない状況であるため、国が指導していくという方針改定かと思うが、周辺の自治体からは、乗車しないとしても、今までであった鉄道を残してほしいという思いがあり、国の支援を受けながら、BRTに変えていくことや上下分離方式を導入することなどをこれから検討していくということであった。

公共交通はこれからも重要であると思うので、我々としても維持と新たな展開を考えていきたい。

（質問）

過疎地域では問題があるものの、バス事業者と市がきっちりと連携し、それなりに補填もしているため、市内ではある程度問題なく運行できているものと認識している。

しかしその一方で、法改正に関しては市域をまたぐ部分の問題であるため、以前もいろいろと意見交換をしているが、全体的に勘案した時に結局本市に影響が出てくるのであれば、連携中枢都市の取組みの中で本市が率先してできる部分がどこまであるのかは分からないものの、例えば姫新線の赤字路線に対する配慮を行わなければならないのではないかと思うが、どうか。

（答弁）

指摘のとおり、姫新線や播但線は市域をまたいで他の市町とつながってこそ路線として成り立つものであるため、姫新線や播但線の利用促進協議会に我々も参加している。

また、県が主体となってJRローカル線の活性化に

係る協議会を作っており、本市の区域は廃線対象ではないが、我々もそこにアドバイザーとして参加し、意見を出している。

連携中枢都市であることから、我々としても一緒にやっていきたいと思っている。

(要望)

ぜひよろしくお願ひしたい。

(質問)

都市開発整備事業会計について、監査委員による決算審査意見書の中で、「貸借対照表と固定資産台帳の数値の整合性もとれていない状態が続いている」、「売却土地は簿外管理されている」と、相当厳しく指摘されている。

当該指摘部分を以前から認識していたと思うが、どのような認識であるのか。

(答弁)

昨年度も同様の指摘があったので、固定資産台帳については再度洗い出しを行い、財務諸表とは直接リンクしていないが、現在作成済みである。

財務諸表については、例えば墓苑の土地は、実際は貸付けであるため登記上は本市の名義であるが、会計上は売却したものとして貸借対照表上の記載から一旦落とし、返還されたときに記載し直すという会計処理を条例や会計規則に則って従前から行っており、その部分が企業の会計と違うのではないのかと指摘されている。

企業と同じような会計を現在作成中で、改めて次回の議会等で提案するが、本会計は今年度末をもって解散し、一般会計に渡したいと考えている。

その際には、本来あるべき会計の形で市民局に引き継げるよう、財務諸表も策定し、きっちりと本会計を閉めることができるよう努めたいと考えている。

(要望)

きっちりと整理した上で市民局に移管できるよう、よろしくお願ひしたい。

(質問)

毎回指摘されており、今定例会の本会議でも指摘があったが、墓じまいによる返還が増えてきている中で、姫路西霊苑は280区画も残っている。

今後は市民局も含めて庁内全体で検討していく必要があると思うが、都市局が関われる段階で、貸付け

を進めていくための案はあるのか。

(答弁)

本市全体の墓苑数は、名古屋山霊苑、片山霊園、西霊苑で総数1万2,850区画程度で、そのうち、現在貸付けが可能な区画数は3霊苑合わせて643区画である。

全体で95%の区画が利用されている状況ではあるが、指摘の通り、利用者は今後減少していくと予想しており、販売推進に努める必要がある。

特に西霊苑は新たに区画を作ったのにも関わらず、販売状況が思わしくないということを確認しているため、少し勾配が急ではあるが車いすに乗ったまま墓参りができるように舗装している点などもPRしながら、販売に努めていきたいと考えている。

また、2025年になると団塊の世代が75歳以上になり、死亡者数の増加が予想されることから、従来型の墓地の需要が極端に下がることはないとも考えている。

今までに培った販売のノウハウもあるため、移管後は市民局に全て任せてしまうのではなく、翌年度以降も相談に乗り、販売の推進に努めていきたい。

(質問)

ペットを家族と思う人が、名古屋山霊苑を選択せず、民間事業者を利用してペット霊苑のようなところに埋葬するという事例も出てきているので、ある程度の区画を民間事業者に委託し、管理してもらうことはできないか。

また、名古屋山霊苑ではペットを合同で焼却しているが、横浜市では個別で焼き、遺骨を持って帰ることもできるので、そのような事例も参考にすることはできないか。

利用してもらうことが本来の目的だと思うので、課題はたくさんあると思うが、そのようなことを検討することはできないのか。

(答弁)

ペットの個別火葬の需要があるということはしばしば要望等でも聞いており、検討も行った。

現在、名古屋山霊苑には2基ペット用の炉があるが、数が多いため、集合で焼き、一括して処理している状況であり、移動焼却車に対応している民間事業者が市内だけでも4社ほどあるので、希望者はそのようなところを利用していると考えている。

行政によるペット霊苑として、例えば西霊苑の残区

画を民間事業者に貸し付け、ペットをしのべるような場所を運営させることができるかどうかについては検討させてもらいたい。

(要望)

ぜひよろしく願います。

(質問)

地域公共交通運営経費は、どの事業にどれくらいの金額を支出したものであるのか。

(答弁)

令和4年6月に補正予算を計上した地域公共交通燃料価格高騰対策支援補助金が約1億7,000万円、離島航路補助金が約800万円、福崎町と姫路市間の連携コミュニティバス運行経費が約300万円、コミュニティバス雪彦が約300万円、乗合いタクシー高木が約100万円、合計約1億8,800万円を計上している。

(質問)

地方バス路線維持経費に約4億1,300万円が計上されているが、本市内の路線だけが対象であるのか。

(答弁)

そうであるが、利用実態に応じた形へと見直すよう、神姫バスと定期的に勉強会を行っており、今回は令和4年5月にははりま姫路総合医療センターが開業した関係の路線の再編と、姫路循環器病センターの閉鎖に伴う短絡を加味し、約4億1,300万円を計上したものである。

(質問)

令和4年度に廃止になった路線と減便になった路線はいくらあるのか。

(答弁)

全体の減便数は把握していないが、はりま姫路総合医療センターの開業による路線再編の関係では、平日の往復便で11便、7便を減便しており、土日祝日については、行きで8便減便となっている。

(質問)

デジタル推進室が出している小学校区別の将来推計人口を見ると、田舎のほうは人口が減っており、利用者数も減るので当然減便になるものと思う。

しかしながら、人口が増加している校区もある。また、本市全体の人口は減少し始めているが、今まではそれほど減少してきていなかった。そのことから考えると、周辺部や北部あたりから中心部へ人口が流動し、

中心部の便利な場所に人が住むようになり、中心部のバス利用者数は増えているということになる。

利用者が減少しているから補助金を増やすということだけではなく、増加している地域があることも考えて計算しないと、本市の支出が増えるばかりであると思うが、どうか。

(答弁)

いろいろな施設ができており、旧来の路線では難しいことを認識している。

また、鉄道駅に駅前広場を整備していることなども踏まえ、既存の市街地の路線バスについても見直す必要があるため、神姫バスと研究しているところである。

(質問)

福崎や宍粟では100円や200円でバスが運行されており、なぜ大都市である本市でそれができないのかと夢前町の住民に叱責されることがある。

公共交通空白地の質問も毎年しているが、市バスがなくなってから1社にずっと依存している現状にある中で、新たに公共交通の再編をきっちりと考えていく必要がある。

今後団塊の世代による運転免許証の返還が増えてくることも見越し、必要なときに対策できるよう、国や県による過疎化対策等の補助事業をうまく活用することも考えてもらいたい、どうか。

(答弁)

市北部において何回かデマンド型乗合タクシーの運行などを試行したが、目標を達成できずにやめてしまったという経緯がある。

経費をかければ続けることもできたが、持続可能性や地元の本当のニーズも受け止め、公共交通だけに頼るのがよいのかといったことも含めて調査・研究し、早い段階で対策を打ち出していきたいと考えている。

(要望)

今回、事業見直しの中に高齢者バス等優待助成制度が入っているが、アクリエひめじやははりま姫路総合医療センターを全ての市民が平等・公平に利用できるようにするためには、公共交通を再編するしかないと思うので、そのようなことも考えてもらいたい。

(質問)

市営住宅の使用料に対する未納は何%あるのか。

(答弁)

令和4年度の収入率は96.39%である。

(質問)

96.39%という数値をどう評価しているのか。

(答弁)

96.39%は中核市62市中15番目の数値であり、いいとまではいえないが、中間以上ではあると考えている。

また、4年度は少し下がったが、元年度から3年度までは収入率が徐々に上がってきており、引き続きできるだけ多く収入できるよう努める。

(質問)

未納率が3.61%ということで、議会でもいろんな議員が質問しているが、この未納分の徴収や市営住宅の管理を民間委託してはどうか。それほど安い金額では業務委託できないだろうとは思いますが、委託することによって、今対応している市職員を他の部署に配属できるという可能性もあるかと思うが、どうか。

(答弁)

市のほうで自主的な納付を促しつつ委託徴収員3名で対応し、現状の収入率となっている。

未納の約3%をさらに民間に委託することは今のところは考えていない。

(質問)

民間であれば24時間営業になる。例えば、夜中の2時や3時に近隣住戸による騒音の苦情を市に訴えたとしても対応できないと思うが、それができるようになる。

また、空家対策や市営住宅の新設の検討も含めて民間委託することによって空家率もかなり減ると思う。空き家が増えれば委託料も増えてしまうので、本当に早期に民間委託すべきだと思っている。

県が民間委託している中で、いつも県に同調している本市がこの件だけは意地を張って直営で続けようとしているように思う。

そろそろ民間委託を考えてみてもいいと思うが、どうか。

(答弁)

県は指定管理をしているが、指定管理では法律上、強制徴収や裁判にかけるといったことは任せられず、全てを民間委託できるわけではない。

本市の場合はもともと少ない人員で対応していたので、委託しても大幅に人手を減らすことはできない。

働き方改革という側面もあると思うが、指定管理となると、今よりコストが高くなることは確実である。

そのようなことも踏まえて、本市にとって最適な管理形態を今検討しているところである。

(要望)

民間では保証会社をつけるなどしており、未納は100%ありえない。裁判になる可能性や延滞など、未納者が発生する前提で考えているように感じる。

また、指定管理になると今よりコストが上がるという根拠が不明である。

これ以上議論するべきではないようなので、要望しておく。

(質問)

私の家の近所に約90戸を有する書写東住宅があるが、そのうち20~30戸は空き室になっていると思う。しかしながら募集戸数は5~6戸であると過去に聞いたことがある。

入居者が退去したが、予算不足から改修ができず、そのため募集ができないということで、市営住宅全体の20~30%が空き室ではあるが募集ができない住戸になっているようである。そうであれば、住宅のストック計画とはなんなのかということにもつながっていく。

住宅管理費に不用額が1億7,566万円計上されているが、きっちりと改修し、希望者に入居してもらえば、余分な住宅を作る必要がなくなるのではないか。

空き室を有効に活用していくことについて、どのように考えているのか。

(答弁)

現場の考えとしては、できるだけ空き室を改修して、たくさん入居させたいという思いは強いものの、多額の改修費用がかかるような部屋も多くあるので、そういった部屋にまで手が回らない状況である。

令和4年度は69戸の空き住戸の改修を行ったが、指摘の点も踏まえ、改修に係る予算については力を入れて要望していきたい。

(要望)

苦しいのはよく分かるが、改修ができずに入居できないままにすると市民にも行政にも不利益が大きいため、改修費用をなんとか安価に抑えられるような改善を検討されたい。

(質問)

令和4年度決算では道路橋梁費や姫路駅周辺整備費、都市計画費よりも住宅費の方が高くなっているが、ある程度市営住宅の建設、改修、建て替えなどをしないと国土交通省から様々な補助金をもらいにくいといった事情があるのか。

(答弁)

国との関係で住宅改修をしているのではなく、老朽化により建替改修の必要性があつてしている。

建替改修も漫然としているわけではなく、周辺部の老朽化した住宅の集約という形で考えており、例えば今回の市川住宅の建て替えに際しては、手柄住宅の入居者に移転してもらうことで、手柄住宅を廃止することができた。

廃止と新築をきっちりと考えた上で建設しており、決して国から言われて建てなくてもいいものを建てているということはない。

(質問)

少子高齢化により家の数自体もあまり必要なくなってきたので、住宅の供給は民間に任せたいのではないかと思う。

行政が民業を圧迫しているのではないかという考えもある中で、例えば、市営住宅を廃止する代わりに民間が持っている賃貸物件については、都市計画税なり固定資産税を少し上げるといったことは検討できないのか。

また、住宅費に33億1,300万円が計上されており、全庁的に事業見直しに取り組んでいる中、市営住宅にしか住めない人がどれくらいいるのかと思う。

このたび市営住宅の建替工事にかかる議決更正議案がたくさん提出されているが、民間でもたくさん空きが出ている状況であるのに、建て替えてまで市営住宅が必要なのか疑問である。

建築需要という観点であるなら、別に市営住宅でなくとも駅周辺の開発を進めることに公共投資していけばいいと思う。

今建て替える市営住宅に対しては30年の起債をするのだと思うが、人口が減少していく中で、30年後も本当に市営住宅の入居希望者はいるのか。市営住宅は入居者を確保できるが、民間は相続税も払えない状況に陥るといったような形にならないのかと心配である

が、どのように考えているのか。

(答弁)

指摘のとおり、人口が減れば住宅の供給戸数も少なくて済むであろうと考え、平成28年に、平成27年度時点で6,300戸あった住戸から500戸減らして5,800戸にしていくという計画を立てた。

その後、5年後の見直し時期である令和4年3月に計画を改定し、さらにそこから700戸減らし、平成27年度時点の6,300戸から5,100戸まで減らすよう取り組んでおり、どんどん人口が減っているのに市営住宅が増えていくというようなことがないよう、全体の計画に従って新築工事を行っている。

(質問)

計画策定時には、市内の賃貸事業者の空き戸数を調査したのか。

(答弁)

調査しているかとは思いますが、我々は住宅のセーフティネットを供給している立場である。

民間であれば立地や築年数、利便性などに応じて家賃は決まってくると思うが、我々は生活困窮や住宅の困窮に直面している人を対象としており、所得が低い人には安価に貸し出し、そうでない人にはそれなりの料金をもらっている。

住宅困窮者の数から供給に必要な戸数を推計しているが、人口減少が進むようであれば、5年、10年ごとに計画を見直しつつ、必要な戸数はしっかり確保していく。

(質問)

市営住宅への入居を抽選する際は所得の低い順に割り当てるなどしているのか。

(答弁)

基準以下の収入であれば申込み順に抽選している。

(質問)

基準以下というのは幾らであるのか。

(答弁)

普通の市営住宅であれば月収が15万8,000円以下の人が対象である。

(質問)

その場合、家賃は幾らになるのか。

(答弁)

住宅によって異なる。

(要望)

民業を圧迫している形になっていることや、民間事業者に収益を上げてもらい、税収増に結びつける必要があることも合わせて計算し、検討されたい。

(質問)

阿保土地区画整理事業はあとどれくらいかかるのか。

(答弁)

4年度末の進捗率は83.6%である。

事業期間をかなり延長しており、長期間に及んでいるが、今は事業が終盤になっており、対応が困難な物件が残っているという状況が続いている。

極力早く完了したいという思いもあり、幹線道路には特に力を入れているが、今のところはまだ完了の見通しが立っていない。

昨年度末に事業期間の終期を令和14年度に変更しているので、令和14年度には完了するよう、鋭意努力している状況である。

都市局終了

12時19分

【建設委員会（建設局）の審査】

建設局

13時34分

送付議案説明

- ・議案第102号 令和4年度姫路市一般会計決算認定について
- ・議案第113号 令和5年度姫路市一般会計補正予算（第3回）

質疑

14時05分

(質問)

道路維持費中の一般補修事業費は側溝の蓋掛けやグレーチングを指すのか。

(答弁)

欠けた蓋や壊れた側溝の補修に係る経費である。

(要望)

地元自治会等からの要望がかなり多く、対応が順番待ちになってしまうことは仕方ないと思うが、不用額が発生しないよう、しっかり執行してもらいたい。

(質問)

側溝にコンクリートのブロックで蓋をし、一部にグレーチング蓋をかけるという整備をしていると思う

が、高齢化が進んでいる中で、地域住民ではコンクリートの蓋を外すことができず、グレーチング蓋を開けただけでは、一部分しか清掃できない。

清掃しやすい形に整備できないのかというような相談をされることが多いが、対応できることはあるのか。

(答弁)

コンクリートの蓋は人力では開けられないため、5メートルに1か所程度はグレーチング蓋をかけたいと考えている。

力のある人にグレーチング蓋を上げてもらい、ほうきなどで掃除してもらえたらありがたいが、それが無理な場合は致し方ないと思う。

(質問)

無理をしてまで側溝の清掃をする必要はなく、必要があれば市役所に連絡してもらいたいということ、自治会を通じて地域住民にしっかりと周知してもらいたいと思うが、どうか。

(答弁)

どこまで地域住民の方に負担をお願いできるのかという問題もあるため、ホームページなどを通じて周知したいと考えている。

(要望)

よろしく願います。

(質問)

そもそも、緩衝緑地とは、工業地帯と一般の住居との間の緩衝として樹木が植えられた緑地であるが、白浜地区の浜手緑地については、事業者がきっちりと環境対策を講じてきたこともあり、きれいに整備したという状況であると思う。

そのような状況の中、ほかの地区の浜手緑地は今後どのように整備しようと考えているのか。

いつまでも高木の剪定に経費をかけるのではなく、白浜地区のように、地元住民と協議し、使いやすい公園に再整備していくということも今後検討されるのか。

また、広畑地区の臨港道路や播磨臨海地域道路など、幹線道路をいろいろと整備しようとしている中で、交通渋滞を起こしている国道250号をきっちりと整備しないと渋滞解消につながらないため、本市は当該国道の4車線化を県に要望している。

今のところ、そこだけを広げることにはできないことや車線を広げる用地がないことを仄聞しているが、地元住民からすると、浜手緑地を削れば道路用地の確保は十分可能ではないかという思いがある。

そのような活用方法もこれからは考えられるのではないかと思うが、そもそも市全体として浜手緑地の今後の整備方針について、どのような考えを持っているのか。

(答弁)

決算書にもあるが、浜手緑地樹木密度管理事業費は、剪定だけではなく、樹木自体を減らしていくという事業費で、年間何百本になるか分からないが、かなり大木化し、暗い箇所もあるため、まずは樹木を減らしていくという考えを持っている。

白浜地区のような整備を今後、他の地区でやっていくような計画は今のところないが、国道250号の4車線化に当たり、事業用地がないということであれば、浜手緑地の活用は考えられる。

(質問)

樹木をいくら伐採しても、場所によっては暗くて気持ち悪く、散歩することもできないという声をよく聞く。

市当局側の考え方だけではなく、実際に散歩などで活用している人の意見や、活用方法についての地元の意見などを自治会等を通じてしっかりと聞いた上で方針を立てることを検討してもらいたい、どうか。

(答弁)

園路周りを剪定・伐採してほしい、グラウンドゴルフができる場所をつくってほしいというような要望もあるので、地元自治会と協議しながら、地域に応じた適切な整備を心がけていきたいと考えている。

(要望)

活用できそうに思えるものの、そのままになっているところが実際にあるので、よく検討されたい。

(質問)

街路灯LED化推進事業費について、LED化されていない街路灯の球切れを自治会から指摘されることが多くあるが、現在の街路灯のLED化率はどれくらいか。

(答弁)

令和4年度末で全体の約85%をLED化している。

(質問)

道路等清掃事業費について、スイーパー車を使って道路清掃をしているが、つい先日、吸っているのか吐いているのか分からないようなスイーパー車が走っているのを見た。

現在運行されているスイーパー車は何年使っているのか。また、何年で交換するのか。

(答弁)

現在、スイーパー車は3台体制で運行しており、2台は民間委託している。

指摘のものは残りの1台かと思うが、それについても来年度委託化するよう進めている。

(質問)

委託料は1台当たり幾らになるのか。

(答弁)

年間約2,700万円である。

(要望)

大きな金額なので、少しでも安くできるよう頑張ってもらいたい。

(質問)

ビッグモーターの店舗前の街路樹の枯死に関する報道がなされているが、本市ではそのような被害の実態はないのか。

もしあれば、損害賠償請求を視野に対策を検討しなければならないと思うが、どうか。

(答弁)

ビッグモーターは市内に2店舗あり、1か所は白浜の国道250号沿いにあるが、そちらはもともと街路樹がない。

また、もう1か所は中地の市道沿いにあり、もともとあった街路樹が現在はなくなっている。

その経緯は、平成30年に地元から、当該道路は通学路であり、見通しが悪いため撤去してほしいとの要望があったため、ビッグモーターとは関係がない。

(質問)

公園施設費中、約1億9,200万円の市単独事業費の中に公園整備事業費として約1億6,476万円が計上されている。公園の多くは維持管理を公園愛護会が担っているが、高齢化により今後厳しくなっていくのではないと思う。

例えば、民間企業とネーミングライツ契約を締結し、

公園の維持管理を任せることはできないのか。

(答弁)

ネーミングライツではないが、民間企業に公園愛護会を作ってもらい、公園の管理をしてもらうことは可能であると考えている。

(質問)

公園愛護会がかなり高齢化しており、特に今は自治会長がすぐに交代してしまうことに困っている。以前は自治会長を6~7年続けていた人もいたが、今は1~2年で交代してしまう。

しかも今は高齢の人が仕事も自治会長もしているというような場合があり、お願いするのも気を遣う状況である。

そのように状況が次第に変わってきていることも踏まえ、使用する子どもの数も少なく、ほとんど使われていないような公園について、地元と協議しながら何か別の利用方法を考えることはできないのか。

(答弁)

もう少し管理しやすい清掃用具を公園愛護会に補助として支給することを考えている。

また、近隣に大きな公園ができるのであれば、周辺の小さな公園を整理するという考えもあるが、小さな公園といえども防火水槽が入っている場合などがあり、精査が必要であると考えている。

(質問)

道路整備等について、今年の3~4月ぐらいに自治会長から電話があり、8年前の要望が未対応であると言われ、あわてて対応してもらったという経緯がある。8年もたつと自治会長は何人も代わってしまうので、自治会長が要望した案件は2~3年など、ある程度短い期間で対応できるよう予算を確保されたいと思う。

また、第2回定例会で、里道整備に関する自治会の要望への対応に時間がかかり過ぎているのではないのかという質問に対して、要望が少ない年は少ない年りの予算を確保しているという答弁があったと思うが、一度十分に予算を確保し、ある程度前倒して要望に対応してみてもどうか。

(答弁)

近年は要望件数と対応件数が同じくらいになってきているが、約3年分の積み残しはある。

予算が増えても人手が足りないと発注できないた

め、件数を処理していくことは難しいと考えている。

総務局には人員要望、財政局には予算要望を行っていく。

(要望)

長く建設局で勤めた後に退職した人を再任用として雇用することなども考えてほしい。

また、来年度予算要求に係る市長ヒアリングの際に、こちらからも要望しようと思うが、当局としても頑張ってもらいたい。

例えば、温暖化の影響により草木の伸びが早く、処理に多額の予算が必要であると思われるため、予算の確保に際してはそのようなことも説明し、増額できるよう努力されたい。

(質問)

先日、本委員会で一般市民がスマートフォンから道路等の破損箇所を通報できるシステムを導入している市への行政視察を行ったが、これは市民にとっても行政が身近に感じられる取組である。

自治会長を通して破損箇所を伝えるという手間が省けるという点でも非常に良い取組であると思うが、そのようなシステムの導入について、どのように考えているのか。

(答弁)

デジタル戦略室と協議しながら、そのような仕組みづくりができないか検討しているところである。

(質問)

8年間も要望が未対応であるなら、一度全て解消したいということを経営会議の場で訴える必要があるのではないのか。

当局が議会から受けた要望を伝え、我々も会派要望の際に要望していくことで、当該未対応地域の要望を少しでも消化しないといけないのではないのかと思うが、経営会議ではそのようなことを訴えにくいのか。

(答弁)

未対応の件数を確認し、それにどれぐらい人員や予算が必要なのかということ踏まえ、要望していこうと思う。

(要望)

頑張ってもらいたい。

(質問)

思案橋の近くの浜手緑地では自殺者が多いが、その

ような自殺者が多い場所を把握しているのか。

(答弁)

そのような場所について聞くことはある。浜手緑地がやはり多い。

(質問)

その場所では3人くらいだったようだが、雰囲気的にどうしても集まりやすいようである。

負の部分がない形になるよう、臨機応変に思い切った伐採をしてみてもどうか。

(答弁)

そのような場所についての情報を持っていると思うので、メリハリをつけた伐採を心がけるように考えていく。

(要望)

そのような場所があることも念頭に伐採されたい。

建設局終了

14時35分

散会

14時35分